

各 位

会 社 名 株式会社ジェーシー・コムサ
 代 表 者 代表取締役社長 和 田 隆 介
 (コード番号 2876)
 問 合 せ 先 責任者役職名 専務取締役
 氏 名 野 田 忠 克
 電 話 03-5722-7261(代表)

平成 19 年 3 月 期(連結・個別)業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

平成18年5月23日付当社「平成18年3月期決算短信(連結)」及び「平成18年3月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました、平成19年3月期(平成18年4月1日～平成19年3月31日)の業績予想について下記のとおり修正いたします。

記

1.平成 19 年 3 月 期連結業績予想の修正

(1)通期(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円
前回予想(A)	20,050	200	60
今回修正(B)	19,500	50	△530
増減額(B-A)	△550	△150	△590
増 減 率	△2.7%	△75.0%	—
(ご参考)前期実績 (平成 18 年 3 月 期)	20,404	△63	△379

(2)修正理由

①売上高及び経常利益について

外食既存店の業績や管理部門のコスト削減は比較的順調に推移しましたが、ピザ事業部において、原料チーズの値上がりによる収益の圧迫、大口契約の減少や当初予定していましたナンを中心とするエスニックブレッドの販売の伸び悩みにより、特に1月以降急激に業績が悪化しました。加えて、賞味期限切れ原材料廃棄により、期末において大幅な廃棄損を計上する見込みであります。

連結子会社においては、鯛焼店のFC展開が当初予定を大きく下回り、また、串焼レストラン等の新店開店に伴う一時費用の発生が業績悪化の要因となりました。

②当期純損失について

特別損失として、遊休資産である大仁工場の追加減損等が発生する見込みであります。

一方、税効果会計の関係においては、個別経常では利益を見込むものの前期に発生した税務上の繰越欠損金残高を大幅に残すこととなり、繰延税金資産の回収可能性に係る会計上の判断から、多額の繰延税金資産の取り崩しを行わざるを得ない状況に至り、当期純損失を計上する見込みであります。

2.平成 19 年 3 月期個別業績予想の修正

(1)通期(平成 18 年4月1日～平成 19 年3月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
前回予想(A)	17,000	200	70
今回修正(B)	17,000	100	△450
増減額(B-A)	0	△100	△520
増減率	0.0%	△50.0%	—
(ご参考)前期実績 (平成 18 年3月期)	18,483	△69	△132

(2)修正理由

①売上高及び経常利益について

外食既存店の業績や管理部門のコスト削減は比較的順調に推移しましたが、ピザ事業部において、原料チーズの値上がりによる収益の圧迫、大口契約の減少や当初予定していましたナンを中心とするエスニックブレッドの販売の伸び悩みにより、特に1月以降急激に業績が悪化しました。加えて、賞味期限切れ原材料廃棄により、期末において大幅な廃棄損を計上する見込みであります。

②当期純損失について

特別損失として、遊休資産である大仁工場の追加減損等が発生する見込みであります。

一方、税効果会計の関係では、経常では利益を見込むものの前期に発生した税務上の繰越欠損金残高を大幅に残すこととなり、繰延税金資産の回収可能性に係る会計上の判断から、多額の繰延税金資産の取り崩しを行わざるを得ない状況に至り、当期純損失を計上する見込みであります。

③配当予想の修正について

上記に伴い、当初1株当たりの年間配当金を5円と発表しておりましたが、今回無配と修正させていただきます。

以上